

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772800526		
法人名	医療法人 全人会		
事業所名	グループホーム ソシアス此花春日出 2F		
所在地	大阪府大阪市此花区春日出北2丁目14番2号		
自己評価作成日	平成22年4月13日	評価結果市町村受理日	平成22年7月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、ほなみ医療福祉グループの医療法人全人会が運営しており、主治医との密なる連携により安心した日々を過ごしていただいている。立地は此花公園に近く、春日出商店街に隣接しており、此花公園では花壇の一角をソシアス花壇として利用させていただき、四季折々の花を植え、水やりの日課など役割を持った生活を楽しんでいただいています。また、商店街では買物を通じて地域の方々との交流や、馴染みの関係を大切にしています。事業所理念である「地域の中で支えあう笑顔と笑顔」を全職員で取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2772800526&amp;SCD=320">c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2772800526&amp;SCD=320</a>
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人の理事長が病院の院長をしておられた時に、介護を必要とする認知症高齢者の増加傾向を見て、介護・医療の両面から専門的にサポートする施設の必要性を痛感、この地域で良かったと思えるような介護施設をつくりたいとの思いで設立された。「住みなれた街でその人らしく…」の理念通り、馴染みの人や場所へ行く支援を一人ひとりに対応している。昔馴染みの居酒屋や新地などへも行くという。毎日、10時から21時までの間、何時でも入浴できるのも他に類を見ない特徴の一つである。地域の公園に利用者と職員が一緒になって花を植え環境美化に貢献している。地域に溶け込んで双方向で活動している姿が見られた。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成22年4月30日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関入り口にはり、意識付けと笑顔で挨拶そして笑顔になるケアの実践に取り組んでいる	「地域の中で支え合う笑顔と笑顔」と事業所独自の理念を作り上げ、玄関の出入りに掲示し、全職員はその理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事参加をさせて頂いたり、回覧板を通し交流を図っている	夏祭り秋祭りや商店街のイベントに参加するだけでなく、地域にある公園に花を植えて環境美化に貢献するなど、日常的に双方向で交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様等に認知症の症状や関わり方、又ケアについて情報提供している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者様やサービス及び活動報告を2ヶ月に一度行っている。評価への取り組みは、上記報告の中で行い、その都度話し合っている	利用者及び家族、地域包括支援センター課長、民生委員、社協理事、事業所職員、他のメンバーで2ヶ月に一度開催、そこでは事業所からの報告とともに、質問や要望を受けるなど双方向的に行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	数ヶ月に一度は訪問し協力関係を築けるよう努力している。広報誌発行時には持参し、活動報告している	区役所窓口へは認定更新の手続きの時や法人機関誌発行時など事ある毎に訪問し、事業所の実情や取り組みについて伝え交流に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる行為の理解はできているが、玄関の施錠は安全の為施錠している	身体拘束等の排除のための取り組みに関するマニュアルを用意し、虐待防止に関する研修会も実施されている。しかし、安全のためという理由で玄関は施錠されている。	利用者に対し抑圧感のない自由な暮らしを支援するために、職員の徹底した見守りと近隣住民の支援を得ながら、鍵を掛けずに安全に過ごせる工夫をして欲しい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待ゼロの方針で日々取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症実践者研修、管理者研修に参加し学んだり、実際利用されている人やこれから必要とされる方の支援は行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には充分時間をとり、説明を行なっている。何か質問、心配事は無いですかと声かけをし言い易い雰囲気づくりを心がけている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議の参加や、イベント時にご家族様や地域の方にも来ていただき、機会を設けている	運営推進会議、訪問時、イベント参加時などに積極的に聞き出す努力をしている。そこで得られた意見は運営に反映させるようにしている。出入り口に意見箱の設置もされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア一会議及び申し送り時などを利用し意見を出し合い、業務改善につなげている	フロア毎に毎月ミーティングを行っている。会議では夜勤の巡回の方法や引継ぎの方法など運営に関する色々な意見が出され、それを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス、ワークライフバランスの導入により評価および就業環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の定期的な事例発表や勉強会及び事業所内での研修会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループ内のホームと情報交換や合同の勉強会等を実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の面接では、利用に当たっての不安な事などを聞いたり、見学をして頂区など不安解消につとめている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談する機会を設け十分な時間と機会作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を聴いた上で今必要と思われる支援について情報提供を行い、必要な支援を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の知恵など教えていただいたり、支援させていただいたりしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	相談事項ではなく活躍された事などいい情報も伝え、家族関係の維持が出来るよう支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方が来所された際、ゆっくりと過ごせるよう支援したり、お寺や美容院など、なじみのところへ行ける様、制限無く支援している	これまでの地域社会との関わりを継続させていくために、馴染みの場所である美容院やお寺参り新地に至るまで可能な限りの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置など考慮し和が出来るよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談等をして頂けるように、声かけをしたりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や自己実現のためケアプランや日課の計画をたて実行している	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、食事の後9時20分ラジオ体操、3時15分公園の散歩、4時半リハビリなどを担当者が把握して、希望通り実行している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの利用者様に対し担当する職員を決め、これまでの生活の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活パターンの中で、出来る事の状態を把握し支援に生かしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族様そして職員の意見やアイデアを反映できるよう事前に書面で意見をまとめ、それを元に会議する事で介護計画に生かしている	本人が地域でその人らしく暮らし続ける事が出来るように、本人、家族や必要な関係者と話し合いながらアイデアを反映させ、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果、気づきや工夫を書くように意識付けをしている段階である		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診の同行や日々のリハビリの通院介助等柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生涯学習の参加や又消防署の方に来ていただいた消防訓練などをおこなっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診により連携は取れている。又利用以前のかかりつけ医や定期受診など継続して受診して頂ける様に支援している	殆どの利用者は事業所の契約医がかかりつけ医となっているが、本人や家族の希望するかかりつけ医の支援も事業所の職員が送迎したり、家族と同行したりしながら支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師訪問時は利用者様の状況を明確に伝え必要な看護が受けれるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合お見舞いに行くなど安心して治療に専念できるよう支援するとともに、入院先の看護師やソーシャルワーカーとの情報交換を密におこなっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応に係る指針及び看取り指針により十分に説明を行い、医師、看護師、家族、職員とチームケアを行なう	重度化した場合や終末期のあり方について、事業所が対応できる最大のケアについて指針をつくり、本人や家族等と随時話し合いながら方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会時に演習も含め、実践に備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回実施し及び夜勤勤務研修でも非難誘導の研修を行っている。地域の協力体制については運営推進会議などで協力体制も要望を出している	消防署の指導の元、年に2回避難訓練や避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練をしている。また、運営推進会議でも防火対策について協力を要請するとともに話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の生活歴・性格をよく理解して接している。声かけや話をする際にもその点を留意するよう努めている。	利用者一人ひとりの誇りを尊重し、丁寧でしかも思いやりのある気持ちのこもった、さりげない言葉掛けが見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との信頼関係を築くとともに、ケア時間など本人の自己決定が出来る声かけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間などの大まかな時間設定はあるが無理にその時間にはめ込まず希望に沿うよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を一緒に選んだり、買物に行ったり又イベント時には少しお化粧品やおしゃれをして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いなどの好みをきき、嫌いなメニュー時には別のものを作り食べていただいたり、個々に合わせて食べ易いように工夫している。又その方の力に合わせて片付けなどして頂いている	給食業者が準備した食材に事業所で収穫した野菜を加えて、利用者の好みに合わせた物にアレンジしている。また、調理、配膳や後片づけもそれぞれのADLに合わせて共に行い、職員と一緒に楽しく食事をしている家庭的な雰囲気が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は計測し、水分量の把握とその方の体質や栄養バランスなど考慮し配膳など行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声かけ、必要であれば介助し口腔内の清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンをつかみサインを見逃さず声かけしている	一人ひとりの排泄パターンやサインを全職員が把握して、あからさまなトイレ誘導ではなく、さりげなく誘導することにより、排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事摂取により植物繊維を取り入れたり、水分量や排便状況の把握をし運動や腹部マッサージ等を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人様の希望や体調をみて支援している	本人の今までの生活習慣に合わせて何時でも入浴を楽しむことができるよう、毎日10時から21時まで入浴の準備が出来ている。希望者は毎日でも入浴可能となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも休息が必要な方はして頂いたり、本人様のリズムに合わせて支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報により薬の効能の理解と薬の変更、その後の様子観察は職員全員に伝えられ、変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事、出来ない事を見極め、出来る事の支援、地域のボランティアの方に来ていただき、折り紙教室の開催やカラオケ大会など楽しみの支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望により一緒に買物に行ったり、近く公園に花を見に行ったり又、ご家族様と一緒に田舎に帰ったり、お食事に出かけられるよう支援している	毎日の近くの公園等へ行く散歩はもとより、利用者のあらゆる希望に添えるように支援している。遠方にある利用者の馴染みの場所へ出かけていく支援もしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方はご自分でして頂き、使いたい時に使えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり、手紙の代筆などの支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた装飾や家具の配置など考慮している	居間は明るくゆったりとしていて、それぞれがくつろげるソファが置いてある。また、壁には利用者の書いた書、テーブルには公園で育てた草花などで飾り付けられていて生活感、季節感に溢れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやホットカーペットなど共有スペースに設置している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのものを持ってきていただいたり、家族との写真を飾ったりして頂いている	利用者本人が使い慣れた家具や家族の写真、配偶者の祭ってある仏壇などが持ち込まれ、居心地良く過ごせる配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	構造上同じ扉なので、トイレやお風呂のマークを貼ったり個々のお部屋には表札を掲げるなど間違えないように工夫している		